

東海体育学会会報

No. 77 / April 2004

東海体育学会

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 南山大学体育学教室内

TEL. 052-832-3110 (603)

[ホームページ] <http://wwwsoc.nii.ac.jp/tspe/>

学会事務局 [e-mail] tspe@htc.nagoya-u.ac.jp

[巻頭言]

難局を三助の精神で

東海体育学会会長 寺田 邦昭

国であれ、会社であれ、一つの組織が発展的に推移するか否かは、それを構成する構成員が、どのようにその組織と対峙しているかによって決まると思われます。ケネディー大統領はその就任演説の中で、「国家があなたに何をしてくれるかを問うのではなく、あなたが国家に対して何が出来るかを問うて欲しい」と述べました。国民の全てが国に対し扶助のみを求めて止まなければ、その国は立ち行かなくなるのが必定で、江戸時代、米沢藩の建て直しに成功した上杉鷹山を範とするならば、扶助と互助、それに自助をどの様にバランスさせるかが、組織存続の鍵となります。

この3月、2週間ほどロンドンに滞在しましたが、その折、一人の青年に金の無心をされました。訳を尋ねると、アフリカのある国から旅行に来たものの、怪我をして予定外の出費で所持金が無くなってしまったので5万を恵んで欲しいとのこと。新手のたかりとは思いつつも、少額である事に加え、両手を合わせ哀願する澄んだ眼差しと、断って豹変されてもとの不安とで、結局は求めに応じましたが、その時、同じくこの地で出会った、ある青年の記憶が、走馬灯の様に脳裏をよぎりました。

それは、留学でこの地に滞在していた30年近く前のこと。毎日、食べるにも事欠く生活を余儀なくされていたある発展途上国の留学青年と、暫く起居を共にしたことがありました。自国では、セスナ機を乗り回すほどの裕福な家庭に育った青年でしたが、当時、彼の国は貧しく、極端な外貨持ち出し制限により食事代が賄えず、毎日粗食に耐え、空腹に苛まれている様子でした。その姿に見かねて、幾度も援助を申し出たのですが、貴重な国の外貨を持出しているのだから、赤貧の生活は覚悟の上、と固辞し続けるのでした。

たった一人の青年の行動で、その国情を判断する気は毛頭ありませんが、前者の青年の国は昔も今も貧しく外国の援助に頼り、後者の青年の国は、その後、経済発展を遂げ、今は立派に先進国の仲間入りをしています。国民性や人間性は、気候や風土、政治や歴史、

宗教や教育など、諸々の環境によって形成されると言われますが、同じロンドンの地で出会った、安易に他人に扶助を求める青年と、援助を固辞し自助を志す青年との格差に、ある種の感慨を覚える出来事でした。

東海体育学会も産声をあげてから50年余、その間における先輩諸氏のご努力により、一時は会員数650名を超え、日本体育学会の他支部に誇りうる学会にまで発展致しました。しかし、昨今では、設置基準大綱化に伴うカリキュラム改正による保健体育科目の選択化や、少子化による私立大学の経営難、加えて、独立行政法人化に基づく組織の改廃などによって、会員諸氏の研究基盤が揺らいでいます。また、学会としても、保健体育担当教員の定数削減に伴う会員数の減少による財政難など、組織運営に一抹の翳りが見えて来つつもあります。このような試練の時を乗り越えるには、前述の三助を有効に機能させなければなりません。すなわち、学会は会員諸氏に対する扶助の方策を、また会員相互間では互助の精神を、そして会員諸氏個々人は自助の努力をそれぞれに模索するところにこそ、この難局の打開と発展が期待されるのではと考えています。

幸いなことに、昨年総会において、役員任期制を導入した新会則による選挙が行われ、新理事会は大きく若返りました。そして、新進気鋭の新理事長を中心に、会報や機関紙のオンライン化を始め、コンピューターネットワークに基づくヒューマンネットワークの構築を強力に推し進めるべく、鋭意検討がなされており、従来とは一味違った、新時代に即した学会運営が期待されてもいます。

最後になりましたが、私はこの1月より加賀前会長の後任として、その大役を仰せつかることとなりました。もとより浅学非才の身ゆえ、果たして重責が果たせるか、大変不安を感じてはありますが、皆様方のご指導を戴きながら、学会のために何が出来るかを考え、微力ながら自助努力を尽くして参りたいと思っています。

[理事会報告]

平成15年度第1回～第7回理事会活動報告

東海体育学会平成15年度第1回理事会議事 録(抄)

日時：平成 15 年 1 月 25 日（土）午後 14 時 30 分～16 時 00 分

場所：中京大学名古屋キャンパス会議棟中会議室

出席者：加賀（会長）、寺田（理事長）、穂丸、池上久、池上康、池田、石垣、大桑、小沢、加藤、島岡、庄司、坪田、鶴原清、富岡、永田、藤井、峯村、武藤、山本裕、吉田（以上理事）、秦、鶴原香（監事）、高橋、片山（幹事）

欠席者：梅村、北川、小林、桜井、西田、花井、守能、山本章、脇田（以上理事）

オブザーバー：宮村（第 50 回記念大会実行委員長）

【報告事項】

1) 東海体育学会第 50 回記念大会報告

宮村第 50 回記念大会実行委員長より、資料に基づき平成 14 年 11 月 9、10 日に開催された第 50 回大会の報告がなされた。また大会参加者から参加費を徴収したこと、広告賛助金が多く集まったことにより大会経費に余裕が生じた為、40 万円を東海体育学会に寄付することの申し出があり、東海体育学会は寄付を受領することとした。

2) 日本体育学会本部報告

庄司理事より、平成 16 年度日本体育学会学会大会が 9 月 23 日～26 日に信州大学で開催されることが報告された。また、日本体育学会の代議員選挙の選挙区について支部により定数に不均衡が生じており、選挙区を見なおすこと、さらには選挙費用の負担先について検討されていることが述べられた。そのほか学会奨励賞、学会賞についてこれまでの 1 名から一編にすることなどの変更が検討されている。

【審議事項】

1) 任期を一期とする理事の選考委員会委員編成について

寺田理事長より、平成 12 年度総会により会則の附則に追加された理事半数の入れ替えについて審議するため、選考委員会を設置することが提案され、原案通り穂丸企画委員長、桜井学会大会委員長、西田庶務委員長、藤井編集委員長、島岡広報委員長、山本裕会計委員長で構成することとなった。また選考委員会の書記は片山幹事とした。なお選考委員会委員長は委員の互選とし、第一回の召集は西田庶務委員長が行うこととした。また、選考委員会案は第 4 回理事会までに提出することとした。

2) 東海体育学会第 51 回大会について

富岡理事より第 51 回大会の日程、会場の他、参加費は無料とすることや、大会実行委員長を植

野会員が、大会事務局を富岡理事が担当することなどが提案され承認された。

3) 東海体育学会学術奨励賞候補者について

藤井編集委員長より、学術奨励賞選考委員会における審議経過が報告され、候補者として、村瀬会員（愛知大学）を候補者として推薦すること、並びに、同氏の投稿論文のタイトルについて一部修正を求めることとした旨の提案があり、これを承認した。

4) 会報第 76 号の発行について

島岡広報委員長より、3 月中に 20 ページの予定で準備が進んでいることが報告され、承認された。なお原稿の締め切りは 2 月 21 日の予定である。

5) 課題研究成果の研究発表誌の発刊について

山本裕理事（課題研究コーディネーター）より課題研究成果の発表については、「東海保健体育科学」に掲載してほしい旨の要請がなされた。審議の結果、当該研究成果の発表方法についての検討を編集委員会に委ねることとした。

6) 事務局の移転について

寺田理事長より、平成 12 年度総会で決定され会則の附則にある事務局の選定について、選定期間がきたことが報告された。審議の結果、当該議題はこれを継続審議とし、先ず、現在の当事者である名古屋大学の意向を伺うこととした。

7) 平成 15 年度理事会日程について

寺田理事長より資料に基づき日程の原案が示され、以下の日程で承認された。第 2 回 3 月 1 日（土）、第 3 回 4 月 19 日（土）、第 4 回 6 月 7 日（土）、第 5 回 9 月 6 日（土）、第 6 回 10 月 4 日（土）、第 7 回 11 月 9 日（日）。

8) その他

山本裕会計委員長より、第 50 回記念大会実行委員会より申し出のあった 40 万円の寄付の会計処理について提案があり、これを平成 14 年度における収入として扱い、一般会計に繰り入れることとした。

議長：寺田邦昭 理事長
書記：高橋義雄 幹事

東海体育学会平成 15 年度第 2 回理事会議事

録(抄)

日時:平成15年3月1日(土)午後14時30分～16時15分

場所:南山大学L棟9階合同会議室

出席者:加賀(会長)、寺田(理事長)、穂丸、池上久、池上康、池田、石垣、大桑、桜井、島岡、富岡、永田、西田、花井、藤井、山本裕(以上理事)

欠席者:梅村、小沢、加藤、北川、小林、庄司、坪田、鶴原清、守能、峯村、武藤、山本章、吉田、脇田(以上理事)、秦、鶴原香(以上監事)、高橋、片山(以上幹事)

【報告事項】

1) 東海保健体育科学の学術刊行物申請について

西田庶務委員長から、東海保健体育科学が学術刊行物として1月に認定され、次巻の送付から利用できることが報告された。

2) 幹事の長期出張について

西田庶務委員長から、高橋幹事の長期海外出張が報告され、それに伴う補充は当面行なわず、必要ときに追加したい旨報告があった。

3) その他

・広報委員会

島岡広報委員長から、資料に基づき以下の2点が報告された。第一に、会報については、準備中で、発行経費についてはミニミニ企画と交渉予定であり、広告を掲載することとミニミニ企画関係の印刷所を使うことになりそうである旨報告があった。第二に、東海体育学会のホームページの管理を日本福祉大から名古屋大学のサーバーに移した旨報告があった。

【審議事項】

1) 任期一期理事の選考について

西田選考委員会委員長から、以下の2点の選考基準が提案された。まず、会則の附則3に則り、総会の選挙で選出された26名の理事の半数が今期だけの任期一期の理事とすること、また、会則第10条に則り、今期が2期目以上の理事19名を任期一期の理事候補とする。したがって19名の理事のうち、13名が次回の理事選挙で被選挙権のない任期一期の理事とし、6名については次回の選挙で被選挙権のある理事とし、この選考は抽選によるものとしたいとの原案が示された。審議の結果、原案通り承認され、次回理事会でその具体的な抽選方法の案を提示してもらおうこととした。

2) 学会事務局の移転について

西田庶務委員長から、名古屋大学から、4年を限度に引き受けることを了承した経緯と、ネットワークを利用し事務手続きを簡略化してきたことを理由に、事務局交代の申し出があったことが報告された。審議の結果、平成15年12月31日で名古屋大学の事務局は終了することが了承された。また、来年度以降の事務局については、今年度の学会大会での理事選挙の結果もふまえ、今後どのように事務局を決定するかについては、継続審議とすることとした。

3) 東海体育学会第51回大会要項案(発表形式及び申込み・抄録提出期限等)について

富岡理事から資料に基づき、東海体育学会第51回大会要項案と抄録提出期限の提案があり、審議の結果、了承された。

4) 課題研究成果(情報と身体)の発表方法について

藤井編集委員長から、現在14名の話題提供者から執筆承諾の回答を得ており、掲載する方向で検討している旨報告があった。さらに、現在の投稿規程では該当するジャンルがないため、特集号として分冊にし、12月をメドに発行し、できれば第25巻と同時に送付したい旨提案があった。審議の結果、これらの提案を承認した。

5) 平成14年度決算報告並びに15年度予算の修正について

山本会計委員長から、資料に基づき平成14年度学術振興基金決算書と収支決算書の報告がなされ、加えて会計監査の結果も報告され、承認を得た。

これに伴い次年度繰越金が126,700円に確定し、資料に基づき平成15年度の予算の修正案が提示され、審議の結果承認された。

6) 平成15年度事業計画案について

穂丸企画委員長から、資料に基づき平成15年度企画委員会事業計画について提案があった。主な事業は、東海体育学研究セミナーの開催、講演会の開催および講演を行なうこと、研究交流委員会の開催と研究交流委員会のさらなる活性化、東海体育学会奨励賞選考委員会委員の選出等であった。

6月21日に開催する東海体育学研究セミナーでは、「ジェンダーとスポーツ」をテーマに、水田珠枝氏(名古屋経済大学)に基調講演を、また来田享子氏(愛知学泉大学)を含む3名によるシンポジウムを企画しており、残りのシンポジストに関しては現在交渉中であることが報告された。これらの事業計画について審議した結果、予算面も考慮しながら事業を進めていくことで承認された。

7) その他

次回理事会(4月19日開催)については、中京大学の学内行事と重なるため、南山大学のL棟9階合同会議室で開催することが了承された。

議長: 寺田邦昭理事長

書記: 山本裕二

東海体育学会平成 15 年度第 3 回理事会議事録(抄)

日時: 平成 15 年 4 月 19 日 (土) 午後 14 時 30 分～15 時 30 分

場所: 南山大学 L 棟 9 階合同会議室

出席者: 加賀(会長)、寺田(理事長)、穂丸、池上久、池田、大桑、小沢、加藤、小林、島岡、庄司、鶴原清、富岡、永田、西田、花井、藤井、山本裕、吉田(以上理事)

秦(以上監事)、片山(以上幹事)

欠席者: 池上康、石垣、梅村、北川、桜井、坪田、守能、峯村、武藤、山本章、脇田(以上理事)、鶴原香(監事)

【報告事項】

1) 学術刊行物の発行について

西田庶務委員会委員長から、年 2 回の東海保健体育科学の発行が学術刊行物として認められるかについて東海郵政局に問い合わせたところ、申請時に年 1 回として許可されているため、2 回は認められないとの報告がなされた。但し、2 冊を同一封筒で送付することは可能であるとの報告がなされた。

2) 中京大学での駐車場利用について

中京大学の守衛さんから、駐車場退出時に指定された正規の出口から出られない理事の方が居られるとの苦情が、北川理事に再三寄せられているので、今後十分注意していただきたい旨の依頼が寺田理事長よりなされた。

3) その他

永田理事より理事メーリングリストにてウイルスが流れた対処についての質問があり、これを受けて山本裕理事より、各理事へオペレーションシステムのアップデート及びウイルスソフトにより対処していただきたいとの依頼がなされた。

【審議事項】

1) 任期を一期とする理事の抽選方法ならびにその実

施について

西田選考委員会委員長から、前回の理事会で決定をみた「今期が2期目以上の総会選出理事19名のうち、6名を会長による抽選で選出し、それ以外の13名を任期1期理事とする」に基づき、抽選の手順が示され、理事会におけるすべての審議事項終了後に加賀会長による抽選を行うこととした。抽選の結果、池上康、池田、石垣、北川、小林、庄司、坪田、鶴原清、西田、藤井、峯村、吉田、脇田の13名の理事が一期の理事となった。

2) 東海体育学会第 51 回大会について

富岡理事より東海体育学会第 51 回大会の案内に関する資料の修正案が提出され、了承された。また、山本理事より大会参加費について特別共同研究員には会費(1,000 円)を支払うことを明記すべきとの提案がなされ、「申込要領」を修正することとなった。

また、富岡理事から、会場(名城大学)での駐車が可能であること、加えて、発表申込についてHPでのオンライン登録を可能にしたこと、広告については依頼中であることなどの報告がなされた。

3) 平成 15 年度東海体育学研究セミナー講師と会場について

穂丸企画委員会委員長より 6 月 21 日に開催されるセミナーのシンポジストとして、前回報告した來田享子氏(愛知学泉大学)に加え、成瀬徹氏(愛知県立猿投農林高校)ならびに勝亦紘一氏(中京大学)とするとの報告がなされた。

4) 発育発達・測定評価領域の研修会後援について

穂丸企画委員会委員長より、東海発育発達・測定評価分科会企画の研修会を、東海体育学会として後援したいとの提案があり、審議の結果、当該研修会の後援が承認された。

5) 会報 76 号の発行について

島岡広報委員会委員長より、来週中には 76 号の印刷が完了し、発送が可能であること、及び印刷費についてはミニミニ企画からの援助費により支払いが行われることが報告された。経費削減のため、発送にあたっては、第 51 回学会案内、研修会案内、セミナーの案内等を同封して発送したいとの提案がなされ、承認された。

6) ホームページの原稿依頼について

島岡広報委員会委員長より、サーバーの移転に伴い東海体育学会のホームページに掲載する内容及び原稿依頼が時提示され、承認された。

議長: 寺田邦昭理事長

書記：片山敬章

東海体育学会平成 15 年度第 4 回理事会議事録(抄)

日時：平成 15 年 6 月 7 日(土)午後 14 時 40 分～15 時 30 分

場所：中京大学名古屋キャンパス、会議棟中会議室
出席者：加賀(会長)、寺田(理事長)、池上久、池上康、池田、大桑、加藤、小林、島岡、庄司、坪田、鶴原清、富岡、永田、西田、藤井、峯村、吉田(以上理事)
秦、鶴原香(以上監事)、片山(以上幹事)
欠席者：稚丸、石垣、梅村、小沢、北川、桜井、花井、守能、武藤、山本章、山本裕、脇田(以上理事)

【報告事項】

- 1) 平成15年度東海体育学研究セミナーについて(企画委員会)
庄司理事より、標記セミナーのポスターを作製したこととあわせ、各大学に掲示して貰いたい旨の依頼があった。また、東海体育学会ホームページに当該ポスターを掲載したこと、事務局に対し、新聞社への案内文掲載依頼を要請したこと、及び各理事のセミナー・懇親会への参加要請などがなされた。
- 2) 研究交流委員会開催について(企画委員会)
庄司理事より、6月21日(土)12時より研究交流委員会を中京大学名古屋キャンパス702教室において開催予定であることが報告された。議事内容は昨年度活動報告ならびに今年度の活動計画、及び今後の活動と展望などであるとの報告がなされた。
- 3) 会報 76 号の発行報告及びホームページ用原稿依頼について(広報委員会)
島岡理事より、資料に基づき、東海保健体育科学 76 号を発行したこと、発行経費についてはミニミニ企画の援助が得られたこと、更に学会大会のプログラム作成についても、ミニミニ企画による援助が可能であるなどの報告がなされた。
また、各委員会に対し、先回の理事会で既に要請した、学会ホームページ掲載用の紹介原稿を至急提出して貰いたい旨の依頼が再度なされた。また、池上理事が日本体育学会の総会へ出席の際、体育学会のホームページから東海体育学会ホームページ(新サーバー)へのリンクを依頼する予定であることが報告された。

【審議事項】

- 1) 次期役員選挙のための選挙管理委員会の設置なら

びに選挙日程について(庶務委員会)

西田理事より、役員選挙に伴う選挙管理委員会の設置が提案され、各委員会の委員長ならびに監事による計8名により構成することを決定した(委員長西田理事)。選挙日程については、6月中旬に投票用紙を会員へ郵送、7月末締め切り、8月上旬開票、9月の理事会にて報告、11月9日学会大会当日の総会にて選挙実施との日程を了承した。尚、任期一期の理事については、被選挙権を持たない旨を明示する様、要請がなされた。

- 2) 東海体育学会第51回大会における講演会ならびにシンポジウムのテーマ・演者等について(学会大会委員会)

富岡理事より、資料に基づき、第51回学会大会における特別講演を名城大学経済学部、勝浦正樹氏「テーマ：国民のスポーツ参加の現状(仮題)」、シンポジウムのテーマを「スポーツと道具-科学技術に支えられているスポーツ(仮題)」とし、司会を池上康男氏(名古屋大学)、シンポジストとして吉田和人氏(静岡大学教育学部)、伊藤隆志氏(ミズノテクニクススポーツ製造部)、大槻敦巳氏(名城大学理工学部)を予定しているとの報告がなされた。なお、演者・シンポジストのうち、学会員は吉田氏のみであり、学会員以外の3名への謝金が嵩むため、その援助が依頼され、庶務委員会にて検討することとなった。

- 3) 東海保健体育科学のジャンルとその英名について(編集委員会)

藤井理事より学会誌のジャンルの英語表記について日本体育学会の学会誌(体育学研究)と同様にしてはとの提案がなされ、改正の方向としてはこれを了承し、詳細については次回理事会にて審議することとなった。

- 4) その他

西田理事より、東海体育学会の会報「会員の消息」について、転出会員に記載されている数名の会員については転出ではなく、住所変更であり、誤りであることが指摘され、次号にて訂正を行うこととした。

議長：寺田邦昭理事長

書記：片山敬章

東海体育学会平成 15 年度第 5 回理事会議事録(抄)

日時：平成 15 年 9 月 6 日(土)午後 14 時 30 分～16 時 15 分

場所：中京大学名古屋キャンパス 会議棟中会議室
出席者：加賀(会長)、寺田(理事長)、稚丸、池上久、

池上康、池田、大桑、小沢、加藤、北川、小林、庄司、鶴原清、富岡、永田、西田、花井、藤井、武藤、山本裕（以上理事）、秦、鶴原香（以上監事）
欠席者：梅村、石垣、桜井、島岡、坪田、守能、峯村、山本章、吉田、脇田（以上理事）、片山（以上幹事）

【報告事項】

1) 日本体育学会理事会報告について

北川理事から、平成15・16年度（社）日本体育学会第3回理事会の議題について資料に基づき報告がなされた。特に、国際誌の計画通りの発行が現実には困難であり、問題になっていることが報告された。また、学会大会のあり方についても資料に基づき報告がなされ、発表演題数の減少傾向から、隔年開催および専門分科会による演題発表の審査の撤廃による演題申し込み期限の延長等が検討されていることが報告された。なお、来年度は信州大学で、再来年度は筑波大学での開催が決まっており、隔年開催は早くてもそれ以降になることが報告された。

2) 次期役員選挙（郵送投票）の開票結果について

西田選挙管理委員会委員長から、資料に基づき郵送による会長・理事候補者の選出結果が報告された。有効総数は150であり、前回よりも増加したことが説明された。開票の結果、会長候補者として3名を選出し、理事定数26名のうち各県別上位2名の理事、8名を選出し、残りの18名の2倍にあたる36名の理事候補者を選出した旨報告があった。

3) 平成15年度東海体育学研究セミナー報告について

穂丸企画委員長から、6月21日（土）に中京大学名古屋キャンパスにおいて開催された平成15年度東海体育学研究セミナーについて報告があり、50名程度の参加者があったこと、東海地区以外の参加者もあり、体育学だけに限らず多くの人に関心のあるテーマであったことが報告された。

4) 研究交流委員会報告について

穂丸企画委員長から、6月21日（土）に研究交流委員会が開催され、13分野のうち11分野からの研究交流委員と会長、理事長、企画委員の計16名の参加があったことが報告された。そこで各分野の昨年度の活動報告と今年度の計画が報告され、分野間で活動状況に格差があるが各分野の委員は来年度以降も継続し、今後とも活性化のため活動を継続することを確認した旨報告された。また、

会員相互の情報交換のため会員のメールアドレスの活用方法についての検討と、会員の異動情報を各研究交流委員に連絡して欲しい旨要望が出された。

5) その他

・企画委員会

穂丸企画委員長から、7月19日（土）に発育発達測定評価分野の研修会が、出村慎一氏（金沢大学）を講師に迎えて開催され、30名程度の参加者があった旨報告がなされた。

【審議事項】

1) 東海体育学会第51回大会について

イ) 申込み締め切り期日の延期について

富岡理事から7月31日に申込みを締め切ったところ、例年より少なかったため学会大会委員会で検討した結果、申込み期限を8月31日まで延期することとし、全会員に葉書で通知した旨報告があり、これを追認した。また、これに伴い抄録提出期限も1週間延長したことが報告され承認した。

ロ) 演題および発表者（特別共同研究者を含む）について

富岡理事から資料に基づき22件の演題と発表者が紹介された。またそれに伴って11名の特別共同研究者が申し込まれていることが報告された。この特別共同研究者については、特別共同研究者の申請が事務局に提出されている旨、西田庶務委員長からその申請理由とともに報告され、11名全員の申請を承認した。

また、佐橋稔雄氏の申込み時の所属が東海体育学会になっている点が指摘され、審議の結果、東海体育学会という所属名を使用するのは好ましくない旨、庶務委員会から佐橋氏に連絡することとした。

ハ) プログラム案（研究発表・講演会・シンポジウム）および抄録等について

富岡理事から資料に基づき説明があり、演題数の増加から一般研究発表を30分延長し12時30分までとし、以下30分ずつ遅らせることが提案され、審議の結果承認した。

また、富岡理事から特別講演会およびシンポジウムの講師謝金について、今年度予算を超過するが支出可能かとの質問があり、大会関係の講師については規定通り支出することが確認された。

二) 座長の決定について

富岡理事から、座長の決定についての審議が次

回理事会（10月4日）では抄録の印刷に間に合わないことから、学会大会委員会に一任して欲しい旨提案があった。審議の結果、大会への参加者を増やすためにもできるだけ理事以外の会員を座長として選出することを考慮したうえで、学会大会委員会に一任することを承認した。

ホ) ミニミニ企画の次年度援助金一部取り崩しについて

富岡理事から抄録集の印刷と発送が今年度予算を超過する見込みであることが報告され、ミニミニ企画の次年度援助金30万円のうち5万円を取り崩して印刷費に充当したい旨提案され、審議の結果、ミニミニ企画関係の印刷所を利用することを確認して承認した。これによって今年度援助金の残額5万円と合わせ、計10万円を抄録集の印刷費に充当することが承認された。

2) バイオメカニクス分野の研究会講演の後援について

穂丸企画委員長から、9月2日（火）に中京大学名古屋キャンパスにおいて開催されたバイオメカニクス分野の研究会の開催経緯が説明され、学会として後援し、講師である吉田和人氏（静岡大学）に謝金を支出したことが報告された。審議の結果、事前に理事会での承認を得ることが望ましいとした上で追認することとした。また、開催に当たってはできるだけ多くの会員に告知することが必要であることから、メールアドレス等を利用した会員への連絡方法を検討することとした。

3) 事務局電話（携帯電話）の廃止について

山本会計委員長から、事務局専用の携帯電話が機能していないことから廃止したい旨提案があり、審議の結果これを了承した。

4) 東海体育学会第52回大会について

寺田理事長から、第52回大会は静岡県で開催されるが、当番大学については次回理事会で提案される旨説明があり、これを了承した。

5) 次期事務局の決定方法について

寺田理事長から、今年度第2回理事会で現在の事務局（名古屋大学）は今年度で終了し、来年度以降の事務局については、今年度の学会大会での理事選挙の結果もふまえ、大会以降に新会長や新理事で決定することとしていたが、事務局の引き継ぎ等も考慮し、今年度中に現理事会で決定することとし、臨時理事会の開催やメーリングリストを用いた審議等の方法を考えたい旨提案され、審

議の結果これを了承した。

6) その他

・特別共同研究者の会費納入について

富岡理事から、特別共同研究者の会費納入方法について質問が出され、事務局が申請書の承認報告とともに振込用紙を演者に送付し、事前に振り込んでもらうことを確認した。

次回理事会（10月4日開催）については、中京大学の学内行事と重なるため、南山大学で開催することが了承された。

議長：寺田邦昭理事長

書記：山本裕二

東海体育学会平成 15 年度第6回理事会議事録(抄)

日時:平成15年10月4日(土)午後14時30分～15時50分

場所:南山大学L棟9階合同会議室

出席者:加賀(会長)、寺田(理事長)、穂丸、池上久、池上康、池田、大桑、小沢、加藤、島岡、庄司、鶴原清、富岡、永田、花井、藤井、山本裕、(以上理事)、秦、鶴原香(以上監事)、片山(以上幹事)

欠席者:石垣、梅村、北川、小林、桜井、坪田、西田、守能、峯村、武藤、山本章、吉田、脇田(以上理事)

【報告事項】

1) 東海体育学会第51回大会準備状況について

富岡理事より、第51回大会における発表者、佐橋稔雄氏の所属を「東海体育学会」から「元大同工業大学」への変更を行ったことが報告され、承認された。現在プログラムを作成中であり、役員選挙結果ならびにポスターなどを同封し、来週中に発送の予定であることが報告された。

2) 東海体育学会学術奨励賞有資格者について

西田庶務委員会委員長が欠席のため、山本裕理事より奨励賞有資格者は佐藤敏郎氏（春日井市保健センター）及び、星野秀樹氏（愛知文教女子短期大学）であるが、星野氏については学会所属が3年以上であるか否かについて未確認であるため、後日事務局において確認し、当該選考委員会委員長に結果を報告することとなった。

3) その他

山本裕理事より前回理事会にて承認された事務局の

携帯電話について、契約解除を行ったことが報告された。

【審議事項】

- 1) 東海体育学会第51回大会について
 - イ) 座長の決定について
富岡理事より、学会大会における座長が提案され、承認された。
 - ロ) 平成15年度総会議長団の推薦について
富岡理事より、議長団として勝瀬幸貞氏(名城大学)が推薦され、承認された。他の一名の候補として、杉浦春雄氏(岐阜薬科大学)、湯海鵬氏(愛知県立大学)、斉藤由美氏(名古屋造形芸術大学)が候補者として推薦され、杉浦氏を第一候補として富岡理事より依頼することとなった。
- 2) 平成15年度総会次第及び総会資料について
 - イ) 西田庶務委員会委員長が欠席のため、山本裕理事より総会資料案の説明がなされた。役員選挙については、まず会長選挙を実施し、開票している間に次の議事を進めておき、開票結果を報告後、理事の選挙を実施することとした。ミニミニ企画ならびに日本教育シューズ振興会からの平成14年度予算への補助金については、口頭にて報告とすることが確認された。
 - ロ) 平成15年度事業報告(中間)の企画委員会の事業報告に、9月2日に中京大学で開催されたバイオメカニクス講演会を追加することとし、7月19日に愛知大学で開催された発育発達測定評価研修会とともに、研修会等の後援として明記することとした。
 - ハ) 平成16年度予算案での刊行費については、東海保健体育科学が学術刊行物として認められているため、現状より発送費の減少が予測されることから、予算案を修正の上、次回理事会に提案し、総会に提出することが承認された。
- 二) 総会次第における開会及び閉会の辞、並びに当番大学挨拶の担当者については、富岡理事にその人選を一任することとした。
- 3) 投票による役員選挙結果の会員への報告について
標記の件につき、西田庶務委員長に代わり山本裕理事から、一昨年と同様に、学会大会抄録集発送時に役員選挙結果を同封し、会員へ報告することとしたい旨提案があり、これを承認した。
- 4) 東海体育学会学術奨励賞選考委員会の編成について
第50回大会と同様に、編集委員会全員及び企画

委員会から選出された4名による委員会を、次回理事会までに編成することが承認された。

- 5) 東海体育学会第52回大会について
峯村理事及び山本理事が欠席のため、寺田理事長より第52回大会は静岡大学にて開催することが提案され、承認された。
- 6) その他
 - イ) 藤井理事より、編集委員会での話し合いの結果、学術誌ジャンル欧文名について、学術奨励賞を“Young investigator award”とすることが提案され、承認された。ただし、論文の扱いはOriginalであることが確認された。
 - ロ) 藤井理事より、東海保健体育科学 Vol. 25 の進行状況として、総説1編、原著1編、事例報告1編、学術奨励賞(原著)1編、資料1編及び加賀会長の講演を掲載予定であること、並びに現在1編査読中であり、結果次第で掲載されることが報告されこれを了承した。
 - ハ) 山本理事より日本体育学会からの会費の振込み時期と東海支部業務時期にズレが生じており、業者に対する支払いが遅延することがあり、運転資金の確保について善処方の依頼がなされた。審議の結果、学術振興基金の一時借用または基金を担保にした資金調達等も含め、今後さらに会計委員会で検討することとなった。

議長: 寺田邦昭理事長

書記: 片山敬章

東海体育学会平成15年度第7回理事会議事

録(抄)

日時: 平成15年11月9日(日) 午後12時40分~13時30分

場所: 名城大学10号館第2大会議室

出席者: 加賀(会長)、寺田(理事長)、石垣、穂丸、池上久、池上康、池田、梅村、大桑、小沢、小林、加藤、北川、桜井、島岡、坪田、西田、鶴原清、富岡、永田、花井、藤井、武藤、山本章、山本裕、吉田(以上理事)、秦、鶴原香(以上監事)、片山(以上幹事)、榎野(第51回大会実行委員長)、関(総会司会)、勝瀬、杉浦(総会議長団・理事会推薦)、稲村(次期学会大会代表)

欠席者: 庄司、峯村、守能、脇田(以上理事)

【報告事項】

- 1) 第51回大会の進行状況について
富岡理事より、第51回大会の進行状況が紹介された。参加者数(会員:95名、当日会員5名、理事会開催時点まで)
- 2) その他
なし

【審議事項】

- 1) 東海体育学会第51回大会総会次第について
 - イ) 当番校挨拶について
楨野氏より、当番校挨拶については兼松名城大学学長よりなされることが紹介された。
 - ロ) 平成15年度総会議長団の推薦について
勝瀬氏(名城大学)、杉浦氏(岐阜薬科大学)が推薦された。
 - ハ) 議事について(事業報告・決算報告・監査報告)
事業報告、決算報告については寺田理事長より一括して報告することとなった。
監査報告については秦理事より報告することとなった。
 - ニ) 役員選挙について
西田選挙管理委員長より、資料に基づいて選挙を実施する予定であることが報告された。また、会長及び理事の選出についての資料中、

田恭子氏を來田享子氏と訂正するとともに、選挙の実施については選挙管理委員会により行う予定であることが報告された。

- ホ) 52回大会当番校挨拶について
当番校代表の稲村氏から、次期大会は静岡大学にて開催されること。期日については検討中であることが報告された。

- 2) 東海体育学会学術奨励賞選考委員会の編成について

委員会編成として、企画委員会より穂丸理事、坪田理事、鶴原理事、山本章理事が加わることが承認された。

- 3) 学会業務の運転資金について

山本裕理事より、学会業務の運転資金については東海体育学会学術振興基金のうち、入出金可能な12万円を当面の運転資金とし、選挙実施などにより資金が不足する場合には基金を担保とし、資金を借入れすることで学会業務の運転資金に当て、日本体育学会から会費及び補助費が入金され次第、借入金を返済ことが提案され、承認された。

- 4) 次期理事会への申し送りについて

申し送り事項がある場合には、後日寺田理事長に報告することが確認された。

議長：寺田理事長
書記：片山幹事

平成15年度 企画委員会活動報告

企画委員会副委員長 穂丸武臣

平成15年度の活動は第50回東海体育学会総会で承認された以下の活動方針に基づいて事業を展開いたしました。ご協力いただいた関係者各位の御協力に感謝いたします。

1. 東海体育学会研究セミナーの開催

- 1) テーマ 「ジェンダーとスポーツ」
- 2) 日時：平成15年6月21日(土) 14時～16時30分(この後、懇親会実施)

場所：中京大学名古屋キャンパス 702教室

3) シンポジウムテーマと講師

- ① 基調講演テーマ「ジェンダーとは何か」 演者：水田 珠枝氏(名古屋経済大学)
- ② シンポジウム
「体育・スポーツにおけるジェンダーをどのように

とらえるか」 演者：來田 享子氏(愛知学泉大学)
「体育科教育におけるジェンダー・フリー教育推進の実践」 演者：成瀬 徹氏(愛知県立 猿投農林高校)

「競技スポーツにおけるジェンダー」—陸連セクシャルハラスメントのガイドラインをめぐって—
演者 勝亦紘一氏(中京大学)

2. 分野別交流委員会主催の講演会等の後援

① 発育発達・測定評価研修会の講演

講師：出村慎一氏(金沢大学)

テーマ：「体育学・スポーツ科学研究のための分かりやすい統計手法を探る」

日時：平成15年7月19日(土)

場所：愛知大学車道校舎 2号館

②バイオメカニクス研究会講演

講師：吉田和人氏（静岡大学）

テーマ：「卓球におけるコーチングとスポーツ科学—メダル獲得に向けた連携—」

日時：平成15年9月2日（火） 17:30～19:30

場所：中京大学名古屋キャンパスセンタービル604教室

3. 研究交流委員会の開催と活動の活性化

・東海体育学研究セミナー開催時に研究交流委員会を開催した

研究交流委員会：2003年6月21日（土）午後12時00分～13時30分

場所：中京大学名古屋キャンパスセンタービル7階

内容：14年度活動報告と15年度の活動計画等

4. 東海体育学会学術奨励賞候補者選考

東海体育学会第51回大会で発表され研究の内、若手研究者の中から奨励賞に該当する研究を選考しその候補者を決定した。

体育史・スポーツ人類学分野の活動報告

文責：吉田 文久（名古屋女子短大）

今年度は、従来のように、会員の研究成果に学ぶとともに、「課題研究」をまとめ、研究セミナー・東海体育学会に積極的に参加することを活動目標に取り組み、一定の成果を得ることができたと受け止めています。しかしながら、会員相互の情報交流の場として、多くの会員の方々の参加を図ろうとしましたが、その点については依然と課題が残されました。今後の活動については、会員による共同研究として東海地区の体育・スポーツ史をまとめる取り組みに着手することが再度確認され、来年度にはその具体的な作業を展開することになりました。

今年度に行われた例会他の活動記録は以下のとおりです。

第1回 4月26日（土） 「研究セミナー『ジェンダーとスポーツ』の報告に向けて」（来田）

第2回 6月21日（土） 研究セミナー『ジェンダーとスポーツ』に参加

第3回 9月13日（土） 「課題研究」のまとめ
日本体育学会発表の事前検討

「イタリアからみた1940年第12回オリンピック競技大会」（田原）

「1920-30年代の女性スポーツ促進運動と高等女

学校(1)」（来田）

第4回 11月9日（土） 東海体育学会に参加（名城大学）

第5回 12月13日（土） 中止

第6回 2月21日（土） 「クィーンズランド大学 身体運動学部について—スタッフの種類と学生の権利及び義務—」（田原）

「東海地区の体育・スポーツ史研究の動向について」（秦）

「民俗フットボール研究の成果の紹介」（吉田）

※第1回、第3回、第6回の会場は中京大学八事校舎

2004年度の活動計画は、以下のとおりです。

<年間計画>

第1回 4月24日（土） 「東海地区の体育史研究—その研究成果と課題、研究の可能性と問題点—」（仮題）（木村先生に依頼中）

第2回 5月29日（土） 鶴舞図書館にて資料収集、ディスカッション

第3回 7月～8月の1日 図書館（鶴舞 or 県立）にて資料収集、ディスカッション

第4回 11月16日（土） 東海体育学会に参加（静岡大学）

第5回 12月11日（土） 資料収集の作業報告、研究報告（報告者未定）

第6回 2月19日（土） 資料収集の中間まとめ、研究報告（報告者未定）

※第1回、第5回、第6回の会場は調整中、時間は2時から4時30分

運動生理分野の活動報告と来年度の計画

文責：石田浩司（名古屋大学総合保健体育科学センター）

運動生理分野での今年度の目標は、1年前の広報誌でお知らせしたように、今年度に運動生理関係の大きな学会が2つ東海地区で開催されるので、そのバックアップをするということでした。

平成15年8月2、3日に宮村実晴名古屋大学教授を会長に「第11回運動生理学会」が、中京大学名古屋キャンパスで開催されました。私は事務局長として大会に臨みましたが、組織委員、実行委員にお願いした東海地区の運動生理関係者及びアルバイトの院生・学生の

ご尽力で、盛會に終わることができました。参加者が予想を大幅に上回ったため、途中でプログラム・抄録集が不足するなど、うれしい誤算もありました。スタッフの皆様のすばらしい仕事振りを見て、東海地区の運動生理関係者の頼もしさを感じました。スタッフの皆様、そして発表・参加して頂いた方には心から御礼申し上げます。

また、9月19～21日には、星猛しずおか健康長寿財団理事長（東京大学名誉教授）を会長に「第58回日本体力医学会2003静岡大会」が静岡グランシップで開催されました。この学会大会は先の運動生理学会よりも規模が大きく、その運営は非常に大変だったと思われませんが、中田健次郎先生（富士常葉大）を実行委員長、稲村欣作先生（静岡大学）を事務局長として、静岡県の運動生理学関係者を中心にすばらしい大会運営を行い、これも非常に盛會でした。運動生理に関する日本での二大会大会が同じ年、同じ東海地区で開催され、どちらも成功裏に終えることができたということは、東海地区の運動生理関係者の底力を全国に知らしめたと言えるでしょう。関係者の皆様は大変ご苦労様でした。

しかし、それ以外は、例年のごとく、主だった活動をしておりません。ひとえに世話人の怠慢と毎年のように反省しております（同じことを昨年も書きました・・・）。その原因のひとつには名簿作成がうまくいっていないことが挙げられますが、今回、東海体育学会で独自の名簿を作るということですから、それを利用して、研究交流特に共同実験を進めていきたいと思っています。是非、名簿作成にご協力ください。

バイオメカニクス分野の活動報告

文責：合屋 十四秋（愛知教育大学）
湯 海鵬（愛知県立大学）

バイオメカニクス分野研究会では以下のような演題で講演をお願いしました。

- 1) 期日：03年9月2日（火） 17:30～19:30
- 2) 場所：中京大学 八事校舎 センタービル 604 教室
- 3) 講師：静岡大学 吉田 和人氏
- 4) 演題：「卓球におけるコーチングとスポーツ科学」
～メダル獲得に向けた連携～

演者から頂いた発表の要旨は以下の通りです。

卓球では、速いボールを打ち出すこと以上に、対戦者が球質（コース、スピード、あるいはスピン）を予測できないボールを打ち出すことが重要であるという一面があります。動きの良し悪しは、対戦者との関係の中で決まってくるわけです。そのため、

スポーツ科学による国際競争力向上支援も、こうした卓球競技の特性を考慮したアプローチが求められてきました。このような中、日本卓球協会スポーツ医科学委員会は、パーソナルコンピュータの処理能力の飛躍的な向上を背景に、卓球の試合場面の映像から情報を抽出するプロジェクトをスタートし、徐々に成果が見られるようになってきました。日本代表チームの監督、コーチおよび選手らと連携して進めているこのプロジェクトについて、これまでの活動内容とその成果を紹介いたします。さらに、スポーツ科学の手法を地域や学校での卓球のコーチングに活かす方法を提案いたします。

日程的に夏休み中および平日であったので参加者は20人程度でありました。しかし、演者の吉田先生のわかりやすく、且つ、実践に即した報告は、フロアの方々の関心を引きつけ、発表後の質疑応答や意見交換は活発に行われました。日本および世界のトップ選手の実際の試合の映像を、コーチや選手にリアルタイムでフィードバックするアプローチとその研究手法に多くの関心の目が向けられました。とくに、オリンピックでメダルを取るには研究者とコーチ、選手の3者間のTriangle Interactionが非常に大切であり、そのシステム作りと機能的展開を実践されている様子が非常によく伝わってきました。地道で根気のいる研究スタイルですが、これらの研究成果がメダル獲得に少しでも貢献できることを願ったのは我々だけではなかったと思います。今後の活躍を期待します。最後に、参加して頂いた会員の皆さんや学生さんにお礼を申し上げます

発育発達・測定評価分野の活動内容

文責：藤井勝紀（愛知工業大学）、花井忠征（岐阜聖徳学園大学）
鶴原香代子（愛知淑徳大学）、
村瀬智彦（愛知大学）

平成15年度の分科会としての活動は、例年のように分科会の研修会を企画しました。その概要は以下に示します。

<研修会>

東海体育学会後援、東海発育発達・測定評価分科会企画の研修会が下記要領で実施されました。この研修会は、過去3年間に実施した研修会「授業、研究を有効に遂行するIT活用に関する知識」や「身長からみた体力・運動能力における回帰評価の歴史的変遷」の講演会に引き続き、今回も途切れないように学会会員の皆様の研修意欲を盛り上げるための企画として開催されました。

1. テーマ

「体育学・スポーツ科学研究のための分かりやすい

統計手法を探る」

2. 講師

出村 慎一 先生(金沢大学教育学部教授、教育学博士)

3. 日時

平成15年7月19日(土曜日)

午後2時~4時

4. 会場

愛知大学(車道校舎キャンパス 2号館 3階 231教室)

〒461-8641 名古屋市東区筒井二丁目 10-31

多数の方に参加していただき有意義に過ごすことが出来たと思います。特に、第1回目の松浦義行先生の講演とはひと味違った統計手法の講義であったと思います。より実践的に論文審査に有用な統計手法を教授していただきました。終了後は懇親会を開き、東海体育学会会長の加賀先生、理事長の寺田先生にも参加していただき、非常に活発な意見交換がなされました。

次に、日本発育発達学会第2回大会が平成15年度末(平成16年3月27日、28日)に東海地区の愛知工業大学で開催されることになりました。平成14年12月に東京大学で第1回の学会が開催され、その第2回大会が開催されるわけです。以下にその要項を示します。

日本発育発達学会第2回大会要項

日本発育発達学会第2回大会を下記の要領で開催することになりました。皆様方のご協力をいただき、実り多い学会にしたいと願っております。積極的な参加をお待ちしていますので、ここにご案内申し上げます。

日本発育発達学会第2回大会

大会会長 藤井 勝紀

1. 期日・日程 平成16年3月27日(土)、28日(日)

2. 会場 愛知工業大学 エクステンションセンター(12号館)

〒470-0392 愛知県豊田市八草町八千草1247

<ホームページ> <http://www.aitech.ac.jp/>

3. 一般研究発表申込

(1) 申込締切日 平成16年1月24日(土)(当日消印有効)

(2) 参加のみの場合は当日参加も可能ですが、準備の都合上、2月28日(土)までに申し込んで下さい。

4. 特別講演:『*Motor Development and Movement Skill Learning: A Case for a Theoretical Base*』
Dr. David L. Gallahue (Indiana University)

5. シンポジウム

(1) 子どもの遊びと生活習慣

座長: 穂丸 武臣(名古屋市立大学)

①最近の子どもの遊びと生活習慣

演者: 前橋 明(早稲田大学)

②子どもの肥満と生活習慣(運動・食事療法による改善)

演者: 富樫 健二(三重大学)

③子どもの遊びの復活を目指して

演者: 柳沢 秋孝(松本短期大学)

篠原 菊紀(諏訪東京理科大学)

(2) 子どもの体格と運動能力の現状と課題

座長: 出村 慎一(金沢大学)

①子どもの体格の評価

演者: 小宮 秀一(九州大学)

②子どもの運動能力の現状と課題

演者: 酒井 俊郎(浜松短期大学)

③子どもの生きる力と体力

演者: 堤 吉郎(愛知県 扶桑東小学校)

(3) 子どものからだ

座長: 吉川 和利(広島県立大学)

①子どもの動体視力の発達

演者: 石垣 尚男(愛知工業大学)

②Go-NoGo課題による子どもの脳の発達

演者: 寺沢 宏次(信州大学)

③海馬の発達からみた子どもの運動の意義

演者: 征矢 英昭(筑波大学)

大会参加費 6000円(大学院生・学部生等3000円)

発表者は日本発育発達学会の会員資格を得て下さい。日本体育学会発育発達専門分科会の会員以外の方は専門分科会に入会するか、日本発育発達学会の年会費5,000円を大会当日までに納入して下さい。日本発育発達学会の入会金は不要です。

尚、大会参加費は以下の口座に振り込んでいただくか(2月28日 土曜日まで)、当日にお支払い下さい。

イブニングサロンに参加される方は2000円、但し大学院生・学部生等の方は1000円を合わせてお支払いください。イブニングサロン終了後無料バスを用意しております。

以上の要項で開催されます。そして、本大会にご協力していただいた方は以下のように大会組織委員会のメンバーとして参加していただきました。

日本発育発達学会第2回大会組織委員会

大会会長: 藤井勝紀

組織運営委員長: 穂丸武臣

[企画]

企画委員長: 花井忠征、

酒井俊郎、村瀬智彦、石垣享、川添公仁、

八木則夫

[広報、渉外]

春日晃章、川浪憲一、鶴原香代子、斎藤由美

[事務局 (会計)]

正美智子

以上のように、確実に分科会としての活動も定着してきたように思います。これからも東海体育学会発展のために微力ではありますが分科会として貢献させていただきます。

保健分野の活動報告

文責：石垣 享 (愛知県立芸術大学)

平成14年11月に東海体育学会研究交流委員会の保健分野を担当しておりますが、この分野の研究者交流はほとんど進んでおりません。この背景には、私自身の力不足があります。活動内容としては、交流が可能であった発育発達分野の先生の協力により、昨年秋に愛知県内の高校女子生徒の摂食態度、月経状態、身体組成および骨密度の調査を実施し、これらを東海体育学会および発育発達学会において発表しております。また平成16年3月には、愛知県立高等学校学校保健会知多支部研究会主催の講演を行いました。今後の計画としては、各東海地区(静岡、岐阜、愛知)の先生方のご協力を得て、幼児から高校生までの骨密度の調査を予定しており、地域、体格、身体活動および食事と骨密度の関係、ピークボーンマス年齢の予測等に発展することを期待しております。交流活動に関しては、東海体育学会のホームページ上に、この分野の連絡先およびホームページを開設することで促進されるものと考えております。これに関しては、幼稚園および小中高校の教育現場からの問題点または意見を集約し、意見交換を行うことにも利用可能ではないでしょうか。現在では、多くの学会および研究会が存在し、東海体育学会の皆様もこれらに複数所属しているに違いなく、

全大会に参加することは困難であります。その点を考慮すると、身近な東海体育学会大会または講演会等での情報交換が、交流にとって最も効果的な方法ではないでしょうか。

体育科教育学分野の活動報告

文責：丸山真司 (愛知県立大学)

大学改革の嵐の中で2004年度もあつと言う間に1年間が過ぎました。この1年、体育科教育学分野では、会員それぞれの個々の研究活動にお任せ状態で、組織だった活動がほとんど展開されませんでした。それはひとえに幹事の責任だと反省しています。

体育科教育学分野の活性化のために、これからしなければならないと考えている課題をいくつか挙げておきたいと思います。

- 1) 再度、メンバー間のネットワークづくり(幹事間での事務局体制、メンバーへの連絡体制の確立)
- 2) 年間及び長期(3年間)スパンでの研究課題の設定
ex. 今を生きる子ども・青年(大学生を含む)の生活課題・発達課題や、現在のスポーツ状況との関連で体育科教育の焦点の今日的課題は何か。
- 3) 活動の具体的プランの作成
特に3年間ぐらいいを見据えた無理のない具体的な年間計画の策定と積み上げ
- 4) 他分野、学会外との連携(研究課題に応じて学会内外の他分野研究者との共同、小学校・中学校・高校の教師、スポーツ関係者等との共同)

以上の課題はこれまでも意識はしてきましたが、なかなか具体的な活動にまで踏み込めませんでした。今後幹事を中心に組織的に活動したいと考えていますが、4月から幹事の一人である丸山(愛知県立大学)が10ヶ月間ドイツへの在外研究のため不在になります。その間、愛知教育大学の森勇二先生に幹事をお願いしたいと考えています。10ヶ月間大変ご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願い致します。

編集委員会活動報告

編集委員会委員長 大桑哲男

平成15年度、「東海保健体育科学」編集委員会の活動は年度始めに次の4項目の活動方針を掲げました。

1. 平成15年度「東海保健体育科学」第25巻の発刊。
前年度から新たなジャンルとして、「実践研究」、

「事例報告」が設けられたので、これらのジャンルを含めて、総説、原著論文、資料論文、特別講演の掲載を計画する。

2. 学会誌のジャンルの欧文名について整理、検討する。
3. 東海保健体育科学への投稿数を増やすことを検討する。
4. 東海体育学会として企画した課題研究「情報と身体」で発表された内容を「東海保健体育科学」に掲載することを検討する。

平成15年度の東海保健体育科学(第25巻)は、総説1編、原著論文2編(1編は学術奨励賞論文)、事例報告1編、資料1編、東海体育学会会長の特別講演1編、計6編の掲載と、東海体育学会として企画した課題研究「情報と身体」、11編を掲載することができました(特別号を発刊)。

各ジャンルの欧文名が体育学研究の欧文名に準じて以下のように統一しました。

総説 : Review

原著 : Original investigation

資料 : Material

実践研究 : Practical article

事例報告 : Case study

学術奨励賞 : Young investigator award

特別講演 : Special lecture

学術講演(キーノートレクチャー) : Key note lecture

平成16年度「東海保健体育科学」編集委員会の事業計画を以下に示します。

1. 平成16年度東海保健体育科学(第26巻)の発刊を12月初旬に発刊することを計画している。
2. 投稿しやすく(投稿手段の拡大)、投稿から発刊までの迅速化、編集業務に関わる費用の節約のために電子メールを使用しての投稿を検討する。
3. 一般投稿をいかにして増やすかの検討をする。

学会誌「東海保健体育科学」は独立学会としての発行誌であり、の日本体育学会・東海支部学会としての発行誌ではありません。現在、第26巻の発刊に向けて準備を開始しております。より一層のレベルの向上を図り、これまで以上に学会員の業績の貢献に役立つ学会誌になるよう努力していきたいと考えております。日頃、会員の皆さんが取り組まれている研究成果をまとめ、是非、「東海保健体育科学」に投稿して頂くことを強く望んでおります。投稿規程に従って下記まで投稿されることをお願い致します。

論文提出及び問い合わせ先 :

〒466-8555

名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学大学院情報工学専攻(しくみ領域)

「東海保健体育科学」編集委員会

委員長 大桑哲男

Tel&Fax: 052-735-5199

E-mail: ohkuwa.tetsuo@nitech.ac.jp

広報委員会活動報告

前広報委員長 : 島岡 清

広報委員会では4月に会報76号を発行しました。当方の手違いから本来76号であるものを表紙に77号と印刷された会報が一部送付されてしまいましたことをお詫びいたします。今年度発行される会報が77号であることをご了解ください。なお、発行にあたってはミニミニより印刷費の援助をいただきました。

ホームページに関しては、これまで日本福祉大学のサーバーに置かれていたものを名大総合保健体育科

学センターのサーバーに移動しました。しかし、この移動にともなって内容の多くが失われてしまい、更新は残念ながら不十分なままです。今後は業者の利用等も考慮に入れて更新等を頻繁に行い、情報ツールとしての機能が十分に発揮できるような工夫が必要だと思われま

平成15年度東海体育学会総会報告

理事長 山本 裕二

日時 : 平成15年11月9日(日)

午後13時30分~14時20分, 午後17時30分~14時40分

場所：名城大学共通講義棟 301 講義室

司会：関氏（名城大学）

1. 開会の辞

関氏より総会開会が宣言された。

2. 会長挨拶

加賀会長より挨拶がなされた。

3. 当番大学挨拶

兼松名城大学学長より挨拶がなされた。

4. 議長団選出

理事会より勝瀬氏（名城大学）ならびに杉浦氏（岐阜薬科大学）が選出され、議長団として承認された。

1) 平成14年度事業及び決算報告

寺田理事長より事業ならびに決算が報告された。平成14年度決算報告について秦監事より決算書が適正であることが報告され、承認された。

2) 平成15年度予算の修正

寺田理事長より補助金の増加による予算の修正が報告され、承認された。

3) 平成15年度事業報告（中間）

寺田理事長より平成15年度事業報告（中間）が報告された。

4) 平成16年度事業計画及び予算案

寺田理事長より平成16年度事業案及び予算案が報告され、予算案について承認された。

5) 役員選挙

西田選挙管理委員長より、会長選挙について3名の候補者が紹介され、会員による投票が実施された。

6) 学術奨励賞の表彰

村瀬氏へ平成14年度東海体育学会学術奨励

賞が加賀会長より授与された。

7) 第52回大会当番校について

第52回大会当番校を代表として稲村氏（静岡大学）より挨拶がなされた。

8) 役員選挙（その2）

投票結果：北川氏（中京大学）12票、寺田氏（南山大学）46票、宮村氏（名古屋大学）16票、白票0。投票の結果、寺田氏が次期会長として選出された。

寺田氏より次期会長就任についての挨拶がなされた。

引き続き、西田選挙管理委員長より理事選挙についての説明がなされ、投票が実施がなされた。

理事役員選挙結果については特別講演、シンポジウム後の総会にて公表することとなった。

9) 役員選挙（その3）

西田選挙管理委員長より、理事選挙についての結果が公表された。

県選出理事8名を除く、18名が理事として選出された。

穂丸武臣、山本裕二（愛知県）、花井忠征、古田善伯（岐阜県）、八木規夫、米川直樹（三重県）、稲村欣作、酒井俊郎（静岡県）

石垣 享、大桑哲男、石田浩司、中路恭平、永田靖章、秦 真人、富岡 徹、桜井伸二、猪崎弥生、島岡 清、國友宏渉、鶴原香代子、池上久子、吉田和人、梅村義久、村瀬智彦、斉藤 満、宮村実晴（得票順）

5. 議長団解散

6. 閉会の辞

榎野学会大会委員長より閉会が宣言された。

東海体育学会第51回大会を終えて

富岡 徹（名城大学）

東海体育学会第51回大会は、平成15年11月9日（日）、名城大学天白キャンパス共通講義棟において開催されました。中部圏随一の学生数を有するにもかかわらず、本学で開催されるのは第17回大会（1970年）以来のことです。前回は記念大会でもあり、学会運営のイロハは第49回大会を参考にさせて頂きました。

参加・発表申込や抄録原稿の受付は、名城大学内に開設した大会事務局のホームページからもアクセスできるようにし、実施要綱や地図などの提示と申

し込み期日の変更などを迅速にアナウンスするよう心掛けました。シンポジウムや講演会では、学際的に体育・スポーツを考える視点から企画しました。

当日は時折霧雨が舞う程度ですみ、大会事務局としては大変安堵しました。参加者は学会員が115名、当日会員7名でした。また午後の公開講演会及びシンポジウムには十数名の会員以外の方が参加されました。

午前の一一般研究発表では、22題の演題を受け付け2会場に別れ議論が交わされました。分野別の内訳

は、体育社会学 1, 体育心理学 3, 運動生理学 6, バイオメカニクス 3, 体育経営管理 1, 発育発達・測定評価 5, 体育方法学 1, 保健 2 の各演題数でした。当初, 7 月 31 日を申し込み締め切り日に設定していましたが, 演題数が例年に比べ少なく, 急遽 1 ヶ月間申し込み期間を延長した結果当初の倍近くになりました。これに伴い抄録提出期限も 1 週間延長する処置をとりましたが, この時期が日本体育学会や日本体力医学会の会期に重なってしまい, 演者や印刷会社には多少なりともご迷惑をお掛けしたのではないかと反省しております。

発表資料は, PC プロジェクターを利用した方が半数以上を占め, 建設後 1 年に満たない施設の最新情報処理システムを提供できたことは, 参加者にとって好評だったようです。一般発表については, 座長をお引き受けいただいた先生方のご協力により, 滞りなく活発に議論されていたと聞いています。

総会は, 午後 1 時 30 分より開催されました。加賀会長挨拶の後, 当番校を代表して兼松顯名城大学学長より挨拶がありました。その後議長団に杉浦氏(岐阜薬科大学), 勝瀬氏(名城大学)を選出し, 寺田理事長から, 事業報告や予算案などが提案され承認されました。また, 東海体育学会第 52 回大会は静岡大学を会場に開催されることが承認されました。役員選挙では会長に寺田邦明氏が選出された後, 夕刻の総会では理事の選出が滞りなく行われました。

総会后, 統計学がご専門の勝浦正樹氏(名城大学経済学部)より「国民のスポーツ参加の現状」と題する講演がありました。勝浦氏は総務省統計局による「社会生活基本調査」におけるスポーツに関する

参加の現状を示したものです。サッカーや剣道など調査結果の分析例を示されました。これは職業別, 地域別, 年齢別, 収入別などの切り口からスポーツでは行動日数が多いなどの私たちが感覚的に日頃感じていることをデータとして示して下さるとともに,

学歴とスポーツ参加に比例的關係があることも示され, 個人的には大学以降における体育・スポーツ教育の有用性を示すものと感じました。

引き続き, 「スポーツと道具・科学技術に支えられているスポーツ -」と題するシンポジウムが開催されました。名古屋大学の池上康男氏に司会をして頂き, 「卓球における用具とプレーの変遷(副題略)」(吉田和人氏; 静岡大学), 「バットに込めたテクノロジーと技」(伊藤隆志氏; ミズノテクニクス株式会社, 非会員), 「棒高跳びポールの大たわみ変形」(大槻敦巳氏; 名城大学理工学部, 非会員)の演題から活発な討議が行われました。お三方とも, スポーツのルールやパフォーマンス(技術や記録など)と用器具の開発が相互補完的になされていることを歴史とともにお示し下さり, 興味深く聞くことが出来ました。その詳細については抄録集をご覧くださいと思います。なかでも 50 年以上前のプレーをビデオ(記録映画)で示し, 当時のラケットと技術やルールとを比較する吉田氏のご講演では, 研究者として情報機器の発達により発表方法も多様化していくことも実感しました。

ご多忙中のところ講演会及びシンポジウムにご協力頂きました学会員・非会員の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

シンポジウム・総会(第 2 部)終了後は, キャンパス内の高層棟 15 階にあるレセプションホールにおいて 40 余名の参加者を得て, 懇親会が開催されました。高さ 75m からの夜景を見ながらの懇親会は参加者に好評を得たようです。

学会大会の開催にあたり, 多くの方々・企業・団体から有償・無償のご協力を頂戴しました。また, 学会本部事務局, 第 49 回大会を開催されました名古屋市立大学の皆様, 本学教職員など関係各位のご協力に対し心から御礼申し上げます。

次回第 52 回大会の成功を心よりお祈り申し上げます。

東海体育学会第 51 回大会のご案内

学会担当理事 稲村欣作(静岡大学)

東海体育学会第 52 回大会は, 平成 16 年 11 月 13 日(土)に静岡大学静岡キャンパスにおいて開催されることになりました。静岡は東海地区の東端に位置していますので, 皆様の大学からは距離的に遠く, また, 東京へ出かける時には途中下車のチャンスが少ないところでもあります。平成 8 年度に第 44 回大会をお引き受けしてから 8 年立ちますが, 久しぶりに静岡へお越しいただき, 学会大会にご出席いただきたいと思います。

静岡大学へのアクセスは, JR 静岡駅からバスで約 20 分, 東名高速道路の静岡インターチェンジから自動車で約 20 分, それほど不便ではありません。静岡大学は現在の場所に統合移転してから 37 年立ちますので建物の多くは老朽化しておりますが, 学園らしい緑あふれるキャンパスです。うまくすれば, 紅葉の見頃になるかもしれません。

学会大会の内容はこれからですが, 皆様と共に充実

したものにしてほしいと考えています。発表のための機材には、パソコン (Power Point) ・VTRモニターとOHPモニターを準備いたします。懇親会は、自動車でお越しの方が多いため「簡単にする」か「行わない」ことにしたいと思っております。JRでお越しの方には、静岡駅周辺でお楽しみいただきたいと考えております。

今後、4月末にはホームページを立ち上げ、東海体育学会のホームページとリンクします。詳細情報を順

次掲載いたしますので、時々ご覧下さい。発表申込締め切りは従来より遅らせ、8月31日としますので、その延長はできません。今から準備をお願いいたします。体育の世界、スポーツの世界に大きな変革が起こりつつあります。体育学やその関連分野の研究成果を発表・討議し、新たな時代に貢献して行きましょう。会員の皆様に多数のご参加を、実行委員会一同、心よりお願い申し上げます。

研究セミナー報告

庄司節子 (名古屋経済大学)

人びとの多様なスポーツへの関心が高まるにつれて、現在、スポーツはポピュラーな文化として圧倒的なパワーを持っているといえましょう。ポピュラーでパワーのある文化となっているスポーツは、いま 21 世紀の豊かな社会の実現をめざして男女のかかわりなくその個性と能力を十分に発揮できるような身体的自由 (フィジカル・フリーダム) が課題のひとつになっています。

そこで、2003 年度東海体育学研究セミナーは 2003 年 6 月 21 日 (土曜日・14 時～16 時 30 分) に中京大学名古屋キャンパスにおいて、テーマ「ジェンダーとスポーツ」を掲げて次のような内容でセミナーへの参加をよびかけて実施しました。

今やスポーツはわれわれにとってかけがえのない文化となっています。このセミナーは、その文化を男女にかかわりなく享受でき、個性と能力を十分に発揮できるような豊かな社会の実現をめざして企画されています。そうした社会の実現に向けては、国内では 1999 年に男女共同参画社会基本法が公布・施行され、国際的には女性差別撤廃条約や世界女性スポーツ会議におけるブライント宣言の採択などの男女平等・公平を推進するさまざまな条約や法整備がなされるようになってきています。しかし、するスポーツ、みるスポーツ、また、ささえるスポーツなどのかかわりが広がっていきなげない日常生活のなかで、また、教育・指導や研究の場面でも、「おやっ」と「気になる」問題に遭遇することがありませんか？ わが国のスポーツ振興法 (1961) の政策としてようやく策定された 2000 年からのスポーツ振興基本計画においては、学校体育・生涯スポーツ・競技スポーツの推進が図られています。こうしたスポーツ振興のなかでの男女平等・公平の問題の推進はどうでしょうか？そこで、このセミナーはジェンダ

ーの視点から体育・スポーツを検討することによってこうした問題を浮き彫りにし、21 世紀のより豊かなスポーツ文化の構築に向けていきたいと思っています。

セミナーのはじめには、ここでのキーワードとも言うべき「ジェンダー」についての基本的な共通理解を持つために、「ジェンダーとは何か」についての基調講演を水田珠枝さんをお願いしています。その後、3 名のパネリストに下記の内容で問題提供をしていただき、フロアとのディスカッションを予定しています。スポーツの広がりの中で、多様な分野の皆様の参加をお待ちしています。

このセミナーの参加者は、東京・大阪からの参加も含めて約 50 名ほどでした。14 時から予定より 30 分延長して 17 時まで行われ、演者とフロアとの熱心な質疑応答には関心領域の広がりを感じられるセミナーでした。

この基調講演およびシンポジウムの要旨は、下記のようなものでした。

I 基調講演「ジェンダーとは何か」水田 珠枝 (名古屋経済大学)

身体の性差は自然であって、それに基づく男女の役割や社会的地位の性差別的関係は変更不可能の宿命であるというのは、人類史を通じての支配的考え方であった。このような状態を不当だとして是正を求める女性たちにとって、「性差別は宿命」という考え方をどう克服するかが重要課題であった。ジェンダーは、そのために導入された概念である。従来ジェンダーは、男性名詞、女性名詞といった言語の性別をあらわす言葉として使われた。1970 年代以来のフェミニズム高揚のなかで、性差を、身体的性差のセックス (sex) と社会的・文化的に構築された性差のジェンダー (gender) とに区別することが提唱さ

れた。男女の性格、言語、態度、服装、役割、地位など、社会によってつくられた非対照的な性差（＝性差別）をジェンダーとし、それはつくり変えることが可能だと主張されるようになった。この区別は、性差別を除去する有利な論拠となった。

セックスとジェンダーが概念上区別されたといっても、セックスを根拠にジェンダーが形成されてきたのは事実である。人類は生産と再生産（出産）という活動を続けて、社会を維持してきた。生産活動は男女ともに従事してきたが、再生産は女性の負担となってきた。男女のこの関わり合いの差異が、生産を再生産より優位におく社会の成立によって、ジェンダーをもたらすことになった。そしてそれを支えてきたのが、生産と再生産のサイクルが営まれる家族と共同体であった。

しかし近代社会の到来は、この家族と共同体をほりくずし、さらに、人間は自由で平等な存在であるという近代思想は、性差別は宿命であるという女性の意識を変えていった。フェミニズムはこうして登場し、その思想は、現代では、ジェンダーという概念を導入して、社会全体に浸透している性差別的状況の根絶を求めることになった。（要旨・水田氏）



写真1 講師 水田 珠枝氏

II シンポジウム

(1) 「体育・スポーツにおけるジェンダーをどのようにとらえるか」

来田享子（愛知学泉大学）

以下の内容の報告がなされました。

- 1) 1950年代以降の「性」を示す用語— セックス、ジェンダー、セクシャリティについて
- 2) 性の分類の精密化とジェンダーという語の使われ方
- 3) 体育・スポーツ分野で「性」をセックスとジェンダーに区別して考える必要性
- 4) 参加の機会の平等だけで十分か（参加/参画、潜在する性別役割）
- 5) 性差を強調/拡大する身体文化としての近代スポ

ーツ

6) ジェンダーの視点から見た体育・スポーツのメッセージ性

7) シンポジウムの問題提起として「ユニセックス化でなく人間の多様性を認める身体文化へ」

・近年の人文・社会科学と体育・スポーツ分野における性差の解釈

・ジェンダー・バイアス増幅の可能性を防ぐ

(2) 「体育科教育におけるジェンダー・フリー教育推進の実践」

成瀬 徹（愛知県立猿投農林高校）

報告の柱は二点。第一は学習方法レベルにおけるジェンダー・フリー「教育」であり、ジェンダー・フリーそのものを直接教えるというレベルではなく、男女が共通の学習内容を互いに共同して学びとっていくための手立てや方法といってもよい。ここでは、男女共修のための条件整備と、技能的な達成度が求められる体育から、「わかる」を軸とした体育に授業内容を組み替えていくことの必要性を報告した。こうした考え方の延長線上には性差だけでなく、「上手と下手」「大きい小さい」など多様な「差異」を乗り越え共同の学習活動を保障するという方向に繋がっていく。同時にそれは、学習方法レベルとはいえ、体育における共通学力を明らかにしていくことと表裏一体であり、体育の学習観の転換が求められている。

第二は教科内容レベルにおけるジェンダー・フリー「教育」である。ジェンダーあるいはジェンダー・フリーを視野に入れ、それらを教科内容として“とりたてて”教科内容を設定し教えるというレベルである。報告者が実践した「人見絹枝の授業」の一端を紹介したが、女性とスポーツという限定された枠組みに止まらず、スポーツ文化とその発展史を「体育理論」の授業として実施することがジェンダー・フリー「教育」にとって不可欠であることを報告した。（要旨・成瀬氏）

(3) 「競技スポーツにおけるジェンダー—陸上競技連盟セクシャルハラスメントのガイドラインをめぐって—」

勝亦紘一（中京大学）

日本陸上競技連盟（以下陸連）は、2002年9月3日セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）や暴力行為を防止するための「倫理に関するガイドライン」を発表した。スポーツ競技団体では初めてで、しかも被害者の相談窓口も設置することで、多くの関心を呼んだ。

陸連の「倫理に関するガイドライン」作成の背景は、2001年12月朝日新聞社による「スポーツ界のセクハラ」キャンペーンの取材をうけ、記者の単刀直入な質問「スポーツ界のセクハラ問題に関して陸連はどう考えているか」に、適切な回答を迫られたことに端を発した。2002年1月陸連広報委員長を議長として「倫理委員会」を発足させた。委員会のメンバーは、陸連理事を中心として女性3名、男性5名の8名で構成された。この問題を審議していく過程で、法人格を有する競技団体が労働規定として「倫理委員会」の設置義務があることも判明した。又、現状を把握するために加盟諸団体（企業・大学等）の実態調査も実施した。この調査は、後に「セクシュアル・ハラスメントの具体例」を作成する上で大変役立った。

このガイドライン作成の主目的は、《今後セクシュアル・ハラスメントや暴力行為が起らないようにすることと、相談窓口を作ることにあった》内容は次の6項目《○日本陸上競技連盟が定める定義 ○セクシュアル・ハラスメントをなくすために ○暴力行為をなくすために ○セクシュアル・ハラスメント、暴力行為に関する相談、苦情の対応 ○セクシュアル・ハラスメント、暴力行為が生じた場合の対応 ○マスコミとの対応》から構成した。そのうえ添付した項目は、○セクシュアル・ハラスメントの具体例 ○最近マスコミで報道された実例、であった。審議の過程で最も苦慮した点は、セクシュアル・ハラスメントの具体例の作成であった。なぜなら、事前に具体例を示すことによって、この種の問題を今後起こさせないようにしようとしたねらいがあったからである。

陸連は「倫理に関するガイドライン」の発表と同時に、各加盟団体へこのガイドラインの事前指導と相談窓口を設置することの2点を急務として通知した。スポーツ界で最初のガイドラインということもあり、マスコミはもとより各方面から「セクシュアル・ハラスメントの具体例を読み、そこまで示さなくてはいけないのか」「よくやってくれた」「参考になった」等、様々な反響が届いている。今後はガイドラインの徹底を図りつつ、相談窓口も利用しやすい態勢を整えていく計画である。（要旨・勝亦氏）

基調講演においては、人類の誕生から今日の歴史の中で、身体は社会的に作られたものであり身体意識もなかなかずすことができないという問題が強く明示されていました。

性差は一定の社会関係の中で性差別に転化し、性差別の原因が作られたものだから作り変えることができるのであった。スポーツが男性のジェンダー・アイデンティティをもつようになるという神話は、

作られた男らしさ/女らしさの身体意識構造によるものであり、これらジェンダー・スポーツにまつわる神話は、体育・スポーツ科学の現場でのジェンダー・バイアスに対して、きちんと反証をおこなうところから作業をはじめることが必要であった。この講演後のシンポジウムはその作業であり、3名のシンポジストは、いずれも人間の多様性を認める共生という概念に帰結し、共生社会の実現が目標とされていたといえます。こうした共生社会における性的二型性の枠組みとしては、吉本隆明の「n個の性をめぐって」のような様々なレベルでのセックス/ジェンダー/セクシャルリティについての多次元的なとらえ方が必要ではないかと考えています。

ジェンダー（社会的・文化的に構築された性差）の克服に向けて、講演では1) アイデンティティ（自己認識・主体性）、2) 身体の復権（作られた身体の回復）、3) 社会的労働への従事（経済的自立）、4) 法的・社会的諸権利の確立、5) 再生産（出産）の社会保障、6) 新しい生活の探求（個人単位的生活



写真2 シンポジウムジストと質疑応答

保障）の6項目を挙げていましたが、体育・スポーツにおけるジェンダーについても、これらの項目が相互に関連していることは言うまでもないでしょう。

ところで、このセミナーとの関連として、2003年8月31日の世界陸上の女子マラソン（8月31日、平均視聴率30.1%、瞬間最高視聴率41.3%）のテレビ中継を見ていて、アナウンサーの言葉に、また、「おやっ」と気になりました。それは、先頭を走る日本選手を「大和撫子たち」と形容していたからでした。この言葉は辞典に「見かけは可憐で弱々しいが心の強い意で日本の女性をたたえている語」とあるように、戦前には日本女性の美称としてよく用いられた語でした。この語が時代を超えて今もって生き続けていたことであり、驚いたことに今日の力強い女子マラソンの走りの場面の形容としてその時代錯誤に気づかずにメディアを通して世界に発せられ

ていたからでした。改めて、身体の意識構造はなかなかできずすができない事例を見せつけられた思い

がしました。

学術奨励賞を受賞して

愛知大学名古屋体育研究室 村瀬智彦

この度は、東海体育学会学術奨励賞を頂きまして、非常に嬉しく思います。

受賞対象となった研究テーマは、2000年9月から2002年2月の間、米国インディアナ大学にて客員研究員として滞在し、現地の小学校でデータを収集した際に経験したこと感じたことからヒントを得ました。

研究参加者を募る際に、国内では簡単な手続きで済ましていましたが、インディアナ大学では研究計画のみならず「説明と同意」を得るための書類が厳重にチェックされました。英語能力の十分でない私にとっては、このような手続きは大変な労力を必要とするものでした。にもかかわらず、承認が得られた文書を協力許可が既に得られている小学校の児童の保護者に配布したところ、研究参加に同意し署名してくれたのは全体の約75%の児童の保護者でした。75%という数字が大きいのか小さいのか私にはわかりません。しかし、明らかに「説明と同意」の手続きを経たことにより標本数が減ったということでした。

私自身「説明と同意」の手続きは必要不可欠であり、今後、日本でも徹底されるものと考えています。しかし、この手続きが母集団を反映する標本集団の特徴に偏りを生じさせるようなものであってはならないと感じました。つまり、より多くの同意が得られるよう「説明と同意」の段階でどのような点に留意すべきかを測定評価の立場から明らかにする必要性を感じたのです。そこで、関連する研究を検索しましたが納得のいく内容は見つかりませんでした。そのため、帰国後直ちに研究計画を立てデータを収集し分析を試みました。詳しくは「東海保健体育科学」(第25巻第1号)をご覧ください。

奨励賞の候補になり論文を作成する際に、査読の先生から非常に貴重なご意見・ご助言を頂きました。さらに内容が充実しました。この場を借りて査読していただいた先生方に感謝の意を表します。私にとって新しい研究テーマが加わったところです。今後も東海体育学会の学会員の皆様からご指導・ご助言を頂きながら、さらに研究を発展させていきたいと考えております。

エジンバラ大学での在外研究を終えて

名古屋大学総合保健体育科学センター 高橋義雄

スコットランド(英国)のエジンバラ大学教育学部に、2004年2月末まで文部科学省在外研究員として一年間滞在し、ジョン・ホーン博士と共同研究する機会を得ることができた。

英国は、世界史で習うように、権力が法王(Pope)、王(King)、貴族(Lords)、そして庶民(Comons)へと移動し、現在では庶民代表である下院(common)が権力を制御している。政治権力に関心の薄い日本と比べ、社会階級、公と私の関係、自由市場と社会政策に関する話題がニュースなどで溢れている。

英国は、平等な再配分をめざす社会福祉指向の労働党(現ブレア政権)と、自由市場を指向する保守党の二大政党制で、政権交代が、スポーツ・レジャー政策に影響を与える。英国のスポーツ政策をまとめると、1960年代から政府がスポーツに関与しはじめ、1979年発足の保守党サッチャー政権は、財政赤

字解消にむけ、国営企業の民営化、既得権打破、金融制度の大幅自由化を断行し、スポーツ行政は縮小と民営化が進む。保守党政権が導入したCCT(強制競争入札)によって公立スポーツ施設の経営ですら、企業やNPOと行政が競争入札するようになった。1990年に発足した保守党メジャー政権は、ダメージを受けたスポーツ建て直しを図り、1993年に新たなスポーツの財源として「全国宝くじ」を導入した。1997年に登場する現在の労働党のブレア政権は、地方分権を推進し、効率一辺倒から行政サービスの質的な評価を行う「ベスト・バリュー」制度を導入、経済効率と社会的公正を同時に追求している。スポーツ施設経営も、「ベスト・バリュー」で評価され、質の高い効率的な経営をめざしている。

滞在中は、英国のスポーツ施設を見学し、関係者にヒアリングをした。なかでも公立高校やエジンバ

ラ大学のスポーツ施設経営は参考になる点が多い。公立高校 (Deans High School) は、地域社会の生涯学習と学校教育が同じ時間帯に校舎を利用する Dual Use の高校である。学校教育と全く別のスタッフが、生涯学習のサービスを提供する方式は、地域コミュニティが学校施設の利用を考える上で見習うものがある。また、エジンバラ大学のスポーツ施設 (Centre for sport and exercise) は、体育館、トレーニング室、プール、グラウンド、野外スポーツ施設など充実している。これらの施設は、会員制で経営され、会費を支払った会員には電磁式の会員カードが発行される。市民も学生会員、職員会員より割高であるものの会員となることができる。施設には専門のスタッフが常駐し、豊富なスポーツ・プログラムが提供されるが、自己責任の徹底する施設では、日本のようにトレーニング機器の周りに監視するように立つトレーナーはいない。

こうした広く一般に施設を開放し、受益者負担方式で質の高いサービスを提供する大学スポーツ施設というコンセプトは、東海地区の大学スポーツ施設の経営でも取り入れはじめているが、4月から国立

大学法人化する名古屋大学でも必要なことであると感じられた。

最後に、ジョン・ホーン博士とは、「国際化」「情報化」「市場化」から生じるスポーツ労働者の国際的な移民について分析した。彼の理論と英語のアドバイスト、小生の彼への日本語サポートで結実した研究成果は、博士がウイーン大学の Wolfram Manzenreiter 氏と共同編集する書籍として ROUTLEDGE 社から今夏出版の予定である。



(写真はジョン・ホーン博士の研究室で)

海外研修報告

春日晃章 (岐阜聖徳学園大学)

2003 年の 8 月 1 日からアメリカ合衆国のインディアナ大学 (Indiana University) において客員研究員 (Visiting Scholar) として研究活動を行っています。帰国は 2004 年の 7 月末日ですので、現在 8 ヶ月が過ぎようとしています。これまでに私が経験した事や研究の内容などについて以降に紹介させていただきます。

インディアナ大学および担当教授

私の所属しているインディアナ大学 (通称: IU) はインディアナ州内に 10 キャンパスほどある非常に大きな大学で、中でも私の研修先は最も大きなキャンパス (周囲: 約 15 km) である Bloomington 校の School of Health, Physical Education, and Recreation: HPER (通称: ハイパー) です。そして、私の担当教授は運動発達の領域では世界的に有名な Dr. David L. Gallahue 教授です。Gallahue 教授は現在 HPER の学部長を務められており、非常に過密なスケジュールをこなしておられる偉大な教授です。さらに毎年、各国で開催される学会に特別講演者として招待され、世界を駆けめぐりながらの激務を行っています。2004 年の 3 月には「日本発育発達学会」にも特別講演で招かれ、初めて日本の地

で講演 (演題: Motor Development in Children) をされました。

そんな激務にもかかわらず、毎週一度は必ず私との研究ミーティングの場を設けて下さり、多くのアドバイスを提供して下さいます。

私が、なぜこのインディアナ大学の Gallahue 教授のもとで研究活動をするようになったかと言うと、私の大学時代の先輩で現在、愛知大学の村瀬智彦先生が数年前に Gallahue 教授のもとで研究活動をされ、その時の話を聞き、非常に興味を持ったため、受け入れを依頼しました。実際に来てから感じたことは想像以上に素晴らし大学内の環境 (特にスポーツ施設) と、Gallahue 教授の親切かつ熱心なご指導でした。

大学内には 5 万 3 千人収容のアメリカンフットボールスタジアム、1 万 8 千人収容のバスケットボールスタジアムを筆頭に、多くのスポーツ専用施設 (サッカー場、野球場、屋内・外テニス場、屋内・外陸上競技場、屋内・外プール、ソフトボール場、バレーボール場、ゴルフコースなど) や各種トレーニング施設および体育館があり、どれを見ても感嘆するばかりの素晴らしいものです。また、一般学生や教

職員が自由に使用することのできる施設 (SRSC: Student Recreational Sports Center) も充実しており、毎日多くの学生が健康・トレーニング・レクリエーションのために施設を利用しています。聞くところによるとこの施設の学生利用率は 90%以上にもものぼるようで、施設の充実ぶりと学生の関心の高さが伺えます。月に 1 回、施設を地域解放する”family night”というイベントがあり、特に子どもたち向けに種々のゲームを設定し、家族が楽しむ機会として人気があります。

研究内容

現在、私が取り組んでいる研究は、『The influence of directed-play and guided-practice on performance of a novel task among young children』というタイトルです。これは、幼児期の子どもたちにやや複雑な運動課題を与えた場合の練習効果について検討しているものです。私の場合、その題材に Flying Disc を用いています。被験者 (3 歳から 5 歳まで) を 3 グループ (guided-practice group : 個別指導付きグループ、directed-play group : 自主練習グループ、non-practice group : 練習なしグループ) に分け、pre-test と post-test 間の上達 (最長投距離と正確性) の違いを検討する内容で 10 日間の練習期間を設定しています。実際のデータ収集は 4 月の中旬から 5 月下旬にかけて行いますが、私の住んでいる所から依頼した Child care center までは車で 1 時間半程度かかる indianapolis の街にあるため、週に何度か足を運ぶこととなります。この研究結果については、今年の 7 月に香港で開催される国際学会(International Conference for Physical Education : ICPE2004)にて発表することになり、今から英語での発表に期待と不安を抱いています。

研究に関する日米比較

私がアメリカで研究を進める上でこれまでに分かった事を少しご紹介したいと思います。まず、我々のように人間(Human)を研究対象とし、何らかのデータ収集をしようとした場合、全ての研究者は大学の Human Subjects Committee (HSC)に許可を受ける必要があります。聞くところによると、他大学でこの許可なしに研究を行った人がいた事が発覚したため、その大学全ての研究者が数ヶ月間のデータ収集禁止になったほど、厳格かつ重要な手続きなのです。

この許可を得るためには以下のような手続きを取ります。

- ① HSC が主催する Human Subjects Protection Test を受験し、合格して研究者個人として Test ID を取得する必要があります。この場合のテストはインターネット上で受験でき正解率 70%

以上で ID が取得できます。

- ② 研究申請紙に研究者の個人情報を入力すると共に、研究の目的・内容、進め方、危険性、緊急事態の時の対処、データ収集場所 (実施場所) と研究者の関係、研究終了後のデータの取り扱いなどを詳細に記述し、提出します。
- ③ 上記の書類と同時に被験者に対する (私の場合、幼児が研究対象のため保護者宛) Informed Consent 用紙を作成し提出します。この中には、研究目的、参加者のリスク、参加者が得る利益、データの取り扱い、研究者および大学の連絡先、参加の形態 (ボランティア or アルバイトなど)、参加同意の署名欄などが記載されます。
- ④ HSC においてこれら提出書類が吟味された後、委員会からの質問や問題指摘がされ、連絡が研究者に直接届きます。それらの点を加筆・訂正したり、委員会に直接出向き、担当者に説明し、了解が得られたら全ての書類に委員会の認印をもらいます。実際の研究に先立って行われる被験者に対する Informed Consent 用紙配布の際は、委員会からの認印がある用紙をコピーしなくてはなりません。私の場合、実際に認印をもらった後に数カ所の訂正が生じたため、再び HSC に足を運び、説明した後、新たな用紙に認印をもらいました。

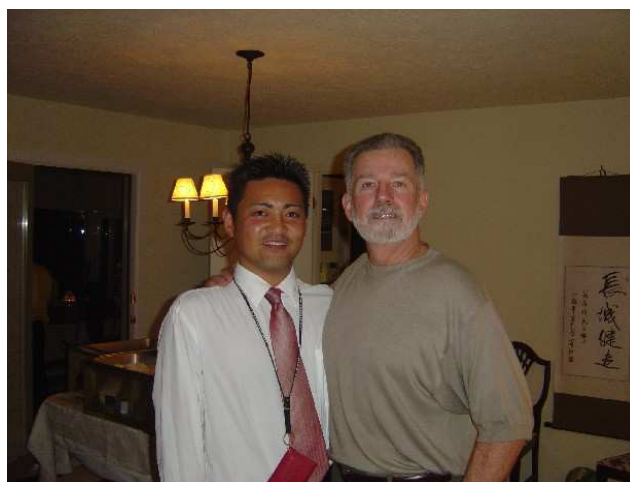
以上がおおよその手順(実際の研究開始までにはさらに詳細な手続きや留意事項がありますが。。。)ですが、全てを英語で行うために実際には困難な作業でした。日本ではまだまだアメリカほど厳格な基準や審査がないと思いますが、研究者個人、大学および被験者を保護するためには欠かせない手続きであり、今後の流れとして日本での同様な制度確立も近いのではないかと感じました。

アメリカでの生活

最後に私の研究以外でのアメリカにおける生活についてご紹介したいと思います。

私は妻と二人の娘 (9 歳と 6 歳) と共に滞在しています。日本にいるときは、娘の小学校生活や我々の英語能力に不安を抱えていました。実際に渡米してみると、「流石は子ども」と感じるほど娘達は新しい環境に慣れ、多くの友人を作り、英会話の能力も日々向上しています。大人の我々も子どもほどの順応性と記憶力はないものの少しずつ異文化社会にも慣れ、週末は充実した家族の時間を過ごしています。特にここインディアナはプロバスケットやプロアメリカンフットボールチームもあり、かつ Indy500 で知られるようにモータースポーツのメッカでもあります。私たち家族も週末には多くの大学スポーツやプロスポーツを観戦しています。また、大学の施設を利用し楽しくスポーツを実践しています。これら

のレクリエーション活動や研究活動を通して国際色豊かな多くの友人達にも恵まれており、この貴重な経験を今後の私たちの人生に生かせるように努めていきたいと考えています。



Gallahue 教授と私

庶務委員会からのお知らせ

委員長 池上久子
幹事 坂口俊哉

1. 東海体育学会事務局移転について

東海体育学会の事務局が平成 16 年 1 月 1 日付けで名古屋大学から南山大学に移転しました。移転に伴って庶務の仕事を引き受けることになりました。庶務の仕事は多々あり不慣れなため御迷惑をおかけすることもあるかもしれません。しかし、会員の皆様の意に沿いますよう努力をしていますので、よろしく願いいたします。なにか、連絡や質問等ありましたら、下記のメールアドレスに遠慮なく御連絡下さい。

新事務局

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18
南山大学 体育学教室内 東海体育学会事務局

TEL 052-832-3110 (603)

FAX 052-832-3653

E-mail : tspe@htc.nagoya-u.ac.jp

2. 日本体育学会への登録・訂正等について

日本体育学会会員には平成 16 年 1 月 1 日付けの紫色の表紙の新しい学会員名簿がお手元に届いたことと思います。ご自分の掲載欄を確認をしていただき、郵便番号、住所、所属等が不正確であったり訂正箇所がありましたら、学会員名簿や体育学研究の折り込みのはがきを利用して、日本体育学会に訂正を依頼して頂きたいをお願いいたします。

3. 東海体育学会会員について

東海体育学会では、学会誌や会報の発行、セミナー、学会大会、研究会の開催をしています。このような活動をとおして、会員の皆様に情報の提供や会員相互の連携を進めています。学会員になるためには日本体育学会の会員となり東海支部に登録する方法と、東海体育学会だけに登録する方法があります。学会活動に興味のある方が近くに見えたら、ぜひ御紹介下さい。上記事務局まで御連絡いただければ、入会手続き等を送付させていただきます。

日本体育学会 入会金 1,000 円 年会費 8,000 円

東海体育学会（日本体育学会東海支部） 入会金 1,000 円 年会費 3,500 円

4. 日本体育学会の支部選出代議員選挙について

今年度は日本体育学会の代議員選挙が行われます。3月25日に日本体育学会会員の方には選挙に関する書類を発送しました。選挙の締め切りは4月26日（月）消印有効となっています。選挙要項にしたがって、ぜひ皆さんの1票を投じてください。

会員の消息

(平成16年3月20日現在)

*新入会員

荒川 和民 (社会福祉法人みなと福祉会)
伊藤 久仁 (名古屋市山田東中学校)
内田 博昭 (ファミリースポーツクラブ)
王 雪豊 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科大学院生)
大島 博人 (名古屋女子文化短期大学生活文化専攻)
加藤 幸久 (名城大学大学院総合学術研究科)
金柁 直也 (中京大学大学院体育学研究科 運動生理学研究室 研究生)
川口 啓 (名古屋市藤ヶ丘小学校)
久保田晃生 (静岡県総合健康センター)
斎藤 正晴 (愛知県立桃陵高等学校)
境 大輔 (中京大学大学院体育学部運動生理学研究室)
鈴木 貴里代 (名古屋学芸大学 (非常勤講師))
高橋 結香 (名古屋大学総合保健体育科学センター)
樽本 裕樹 (名古屋石田学園星城高等学校)
中嶋 佳子 (中京大学運動生理学研究室 大学院生)
中村 祥子 (名古屋大学大学院)
日置 麻也 (はちやリハビリテーション・クリニック)
藤川 小百合 (愛知医科大学付属病院リハビリテーション部)

堀田 典生 (愛知教育大学大学院生)
三浦 英雄 (名古屋文理短期大学 第一理化研究室)
武藤 貴雄 (名古屋市立大学大学院システム自然科学)
山田 美恵 (名古屋市立大学大学院システム自然科学)
劉 樸 (中京大学大学院体育研究科博士課程 大学院生)

*転入会員

唐澤 優江 (中京大学体育学部)
佐藤 耕平 (名古屋大学大学院医学研究科)
佐藤 和 (愛知大学)

*所属変更

佐橋 稔雄 (愛知スポーツ物理学研究所)
富士盛伸重 (静岡県立農業経営高校)

*所属・住所変更

天野 和彦 (東亜大学) 751-0807 下関市一の宮学園町13-7-102
服部 洋兒 (愛知工業大学基礎教育センター) 470-0392 豊田市八草町八千草1247

*連絡先不明者

下記の方の連絡先を御存知の方は E-mail : tspe@htc.nagoya-u.ac.jp に御連絡下さい。
大森 北寛 (愛知県立豊田東高校)
西崎 優子

東海体育学会名簿作成について (重要)

東海体育学会では会員相互の連絡や情報の提供を行うために、東海体育学会独自の会員名簿を今年度作成することになりました。折り込みのものがきに必要事項を記入していただき6月末日までに投函してください。会員全員の方に返送をお願いいたします。退会される方も備考欄にご記入いただき投函してください。切手は貼らなくて結構です。

情報技術の普及は目覚ましいものがありますが、ほとんどの大学においてネットワークが張られ情報通信が利用されています。東海体育学会も、

常に情報の発信を行いウェブ上で情報を公開していきたいと考えています。また、各種の通知や連絡事項もメールでできるようになればよいと思います。郵送による作業では多くの時間と経費を費やしますが、この両面で節約することが可能です。ご理解をいただき、E-mailアドレスをお持ちの方はぜひご記入いただけますようお願いいたします。

平成16年度 東海体育学会役員構成)

◎委員長 ○副委員長

氏名	役職	所属先名
寺田 邦 昭	会 長	南山大学
山本 裕 二	理 事 長	名古屋大学総合保健体育科学センター
穂丸 武 臣	企 画 ○	名古屋市立大学
池上 久 子	庶 務 ◎	南山大学
猪崎 弥 生	編 集	中京女子大学
石垣 享	学 会	愛知県立芸術大学
石田 浩 司	編 集	名古屋大学総合保健体育科学センター
稲村 欣 作	学 会 ○	静岡大学
梅村 義 久	企 画 ◎	中京大学
大桑 哲 男	編 集 ◎	名古屋工業大学
國友 宏 涉	編 集 ○	名古屋文理大学
斉藤 満	企 画	豊田工業大学
酒井 俊 郎	広 報	浜松学院大学
桜井 伸 二	学 会	中京大学
島岡 清	広 報 ○	名古屋大学総合保健体育科学センター
高橋 義 雄	企 画	名古屋大学総合保健体育科学センター
鶴原 香代子	企 画	愛知淑徳大学
富岡 徹	学 会 ◎	名城大学
中路 恭 平	会 計 ◎	南山大学
永田 靖 章	編 集	岡崎女子短期大学
秦 真人	編 集	愛知学泉短期大学
花井 忠 征	広 報 ◎	岐阜聖徳学園大学
藤田 紀 昭	編 集	日本福祉大学
古田 善 伯	企 画	岐阜大学
宮村 実 晴	編 集	東海学園大学
村瀬 智 彦	企 画 ○	愛知大学
八木 規 夫	広 報	三重大学
吉田 和 人	企 画	静岡大学
米川 直 樹	企 画	三重大学
秋間 広	監 事	名古屋大学総合保健体育科学センター
來田 享 子	監 事	愛知学泉大学
坂口 俊 哉	幹 事	南山大学

編集後記

新年度が始まり、キャンパスいっぱい希望に満ちたすがすがしい雰囲気が漂っていることと思います。そんな中で、激動の時代を勝ち残るために会員の皆様は、日々たいへんなご努力をされていることと思います。ご活躍をお祈りします。

さて、会報 77 号をお届けします。役員改選で新体制がようやく整う中での慌しい会報作成でしたので、要領を得ないところもあり、不手際も多々あるかと思えます。どうぞご容赦ください。

本会報から再び海外研修報告を復活いたしました。次号以降、会員の皆様の様々な情報を掲載していきたいと計画していますので、広報委員会へ情報をご提供ください。

最後に、本会報は株式会社ミニミニのご支援をいただきまして発行することができました。この場をお借りし、お礼申し上げます。

広報委員会委員長 花井忠征

東海体育学会会報 No. 77

発行日 2004年4月22日 発行 東海体育学会 編集 広報委員会
事務局 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 南山大学体育学教室内
TEL. 052-832-3110 (603)
メール tspe@htc.nagoya-u.ac.jp
ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/tspe/>
郵便振替 名古屋7-41336 東海体育学会事務局
